韓国・順天大学留学報告

農学部・研究科　農学科・応用生命化学コース　1 年　（穂苅李奈）

〇留学先：韓国・順天大学

〇留学プログラム：順天大学インターンシッププログラム

〇留学期間：26 年 9 月 6 日～26 年 9 月 21 日

〇渡航時の学年：1 年次

・留学に至った経緯について
以前から韓国語を学んでおり、現地での交流を通じて学びを深めたいと考えていました。特に、日本語を学ぶ韓国人学生をサポートするティーチングアシスタントとして活動することで、自身の韓国語力を高めるとともに、日本語を学ぶ側の視点にも触れ、両言語の相違点をより深く理解できると考え、留学を決意しました。

〇渡航前の手続について

・留学奨学金の有無（　有　）
　宮崎大学海外留学支援経費

（応募申請のプロセス）
宮崎大学から案内をいただいて応募しました。
渡航 30 日前までに、申請書と誓約書、プログラム概要、日程表を国際連携課に提出しました。また、宮崎大学指定の海外留学保険に加入いたしました。
渡航前に、「オンライン渡航届」の入力、および「危機管理マニュアルハンドブック」を受領しました。
帰国後 7 日以内に、海外留学報告書を提出いたしました。

〇留学体験記：
渡航・滞在にかかった主な費用は、成田―釜山間の往復航空券が 6 万 5,000 円、朝夕食付きの寮費が 12 万円、食費が約 3 万円、交際費が約 5 万円でした。
寮は新築で、私たちが最初の入居者でした。全員に個室が用意されており、各部屋にはキッチン、シャワールーム、冷蔵庫、本棚、勉強机、ベッド、テーブル、ソファ、テレビ、クローゼットが備え付けられていました。ボディソープ、シャンプー、ドライヤーも用意されており、生活に必要な設備や備品が充実していました。
1 階には共用の洗濯機と乾燥機があり、洗剤は一緒に留学したメンバーで購入して共用していました。また、ウォーターサーバーも 1 階に設置されていました。寮の玄関と各部屋はカードキー式のオートロックで、毎日、室内の清掃とベッドメイキングが行われていました。

なお、トイレは水洗式ですが、トイレットペーパーは流さないよう案内されていました。
朝食は毎朝 7 時 30 分から食堂で提供され、入口でルームキーをかざして入場する仕組み

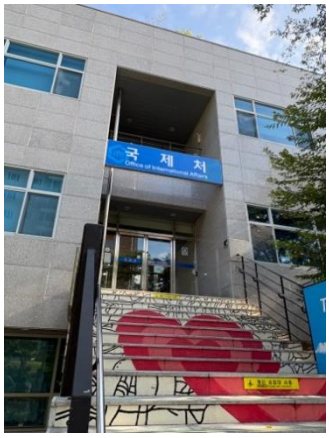
でした。食事はバイキング形式で、夕食も同様に利用できました。ただし、食堂が利用できる時間は 1 時間に限られていたため、予定に合わせて食堂へ向かう必要がありました。昼食は寮費に含まれていなかったため、大学内のコンビニやカフェ、有料の食堂などを利用していました。
大学は自然豊かな環境にあり、キャンパス内の移動では坂道を歩く機会がありました。寮から食堂までは徒歩約 7 分、食堂から韓国語の授業が行われるグローバルカフェまでは徒歩約 5 分でした。また、食堂から日文科のある E8 棟までは、上り坂を歩いて約 15 分かりました。

▼夕食



▼朝食





▲グローバルカフェ



▲寮の自室

大学では、午前中に韓国語の授業を受けました。例年は順天大学の学生向けに開講されている韓国語の授業に参加する形式だったそうですが、今年はグローバル課の先生方が、私たちのために特別に講座を開いてくださいました。
授業では、2 週間かけてハングルの読み書きから挨拶、基本的な文法まで学びました。先生方は日本語を話されないため、韓国語で説明を聞きながら韓国語を学ぶ形で授業が進められました。韓国語を初めて学ぶ参加者も、帰国までに基礎的な韓国語を身につけることができたようです。

昼食はカフェやコンビニで済ませ、午後は 3～4 コマの授業にティーチングアシスタントとして参加しました。授業が行われる日本文化学科の E8 棟では、各授業の開始 15 分前に担当の先生に挨拶をし、授業の概要やティーチングアシスタントとして求められる役割を確認しました。
主に参加したのは、日本語の聴解、作文、アニメーション、社説を通じた日本の現代社会理解、日本文化理解、日本文学理解の授業等々です。
授業は、日本出身の眞栄田先生と松永先生のほか、長年にわたり日本語を研究されている韓

国人の先生方が担当されていました。
聴解の授業では、聞き取り練習のための日本語を読み上げたり、学生の音読を聞いて発音や読み方について助言したりしました。作文の授業では、学生が与えられたテーマに沿って書いた文章を添削し、文法や漢字の誤りを修正するとともに、文章の構成についても助言しました。
また、文化理解の授業では、韓国人学生のグループに加わり、日本と韓国の文化の違いについて話し合いました。互いの文化や考え方を共有することで、相互理解を深めることができました。

滞在中の平日 2 日間は、日文科の学生たちの語学キャンプに同行しました。会場は、大学からバスで約 1 時間の場所にある、順天大学が所有する寮でした。学生会と先生方がそれぞれ企画・運営を担当し、私たち日本人学生は一人ずつ韓国人学生のチームに加わって、協力しながら活動に取り組みました。
先生方が用意したゲームでは、私たちもスタッフとして一人一つずつゲームの運営を担当し、韓国人学生と交流しました。夕食後には、学生主催のレクリエーションに参加しました。チーム対抗のゲームが行われ、勝ったチームには景品が贈られるなど、盛り上がりました。
その後は、先生方と学生が参加する懇親会が開かれました。焼酎やビール、私たち日本人学生が持参したお菓子を囲み、授業とは異なる雰囲気の中で親睦を深めました。
翌日は、先生方が主催するレクリエーションに参加し、書道や風鈴づくりなどの日本文化を体験しました。その後、昼食をとり、大学に戻りました。
日本語を勉強する学生と、日本語漬けの環境で過ごしました。

休日や放課後は自由行動で、主に日文科の学生たちと食事や観光を楽しみました。スンチョンには、有名な国家庭園や噴水公園のほか、文化通りやおしゃれなカフェ、オリーブヤングなど、観光や買い物を楽しめる場所が多くあります。
移動の際には、車を持っている学生に乗せてもらったり、バスを利用したりしました。タクシーも比較的手頃な料金で利用できたため、移動手段の一つとして活用していました。
現地では食事も比較的安価で、街にはカフェが多く、気軽にコーヒーを楽しむことができました。私たちの中にも、食後にアイスアメリカーノを飲む習慣がついた学生が多くいました。
また、車で約 30 分の場所にあるヨスにも足を運び、美しい夜景を楽しみました。授業以外の時間にも日文科の学生たちと交流を重ね、たくさんの思い出を作ることができました。

【ヨス市での様子】



【飲み会の様子】



順天大学の学生たちは、勉強熱心で親切な方ばかりでした。片言の韓国語で道を尋ねた際にも、日文科以外の学生が丁寧に教えてくれたほか、サークルの活動を見学させてくれた学生もいました。
日文科の学生たちは、授業以外の時間にも温かく接してくれ、一緒に多くの時間を過ごしました。日本語での会話が難しい学生とも、翻訳アプリ「Papago」を使いながら交流することができました。日本文化を積極的に学ぼうとする学生たちの姿勢も印象に残っています。
キャンパスには、中国をはじめとするアジア各国からの留学生も多く、国際色豊かな環境でした。また、大学のグラウンドは 24 時間開放されており、学生たちはスポーツや散歩などを思い思いに楽しんでいました。学生と教員の距離も近く、自由で開放的な雰囲気のある大学でした。

▼自由開放されているグラウンドと、そのグラウンドで行われた送別会の様子





今回の順天大学での留学で最も心に残ったのは、同世代の韓国人学生たちが、日本に強い関心を持ち、日本語や日本文化を熱心に学ぶ姿でした。学生たちとの会話を通じて、彼らから見た日本の魅力や疑問に触れ、自分にとって当たり前だった文化や習慣を、新たな視点から捉えることができました。また、日本について説明する際には、自分自身がその背景や理由を十分に理解しているかを考える機会もあり、自国への理解を深めるきっかけになりました。
ティーチングアシスタントとしての活動も、日本語を見つめ直す貴重な経験となりました。作文の添削や音読のサポートでは、普段は意識せずに使っている文法や表現について、学習者の立場から考える必要がありました。相手に分かりやすく伝えるためには、自分自身が理解を深め、相手の理解度に合わせて説明することが大切だと学びました。日本語を教える活動を通じて、私自身も多くのことを学ぶことができました。
また、同行した日本人学生たちが、韓国人学生と過ごす中で、韓国語をみるみる上達させていく姿も印象的でした。食事や観光など、日常のさまざまな場面で言葉を使うことが、学習への意欲や自信につながっているように感じました。この経験から、「相手のことを理解したい」「自分の思いを伝えたい」という気持ちが、言語を学ぶ大きな力になると実感しました。翻訳アプリを使いながらでも交流できたことから、語学力に不安があっても、自分から

相手に関わろうとする姿勢が大切だと感じました。
授業や語学キャンプ、放課後の交流では、文化の違いについて話し合ったり、チームで協力したりする中で、学生一人ひとりの考え方や人柄に触れることができました。相手を理解するためには、自分が持っているイメージを見直し、目の前の一人ひとりの言葉に耳を傾けることが大切だと学びました。日韓の相互理解は、こうした身近な対話や、一緒に過ごす経験の積み重ねから深まっていくのだと感じました。
さらに、農学関連の研究室を見学し、牛のメタン排出削減に関する研究に触れたことも、大きな学びとなりました。日本の研究成果が韓国で活用されていることを知り、環境問題のような共通の課題に取り組むうえで、国境を越えて知識や技術を共有する意義を実感しました。今回の留学は、自分の専門である農学と国際交流とのつながりを考える機会にもなりました。
２週間という短い期間でしたが、言語や文化、自分の専門について、多くの気づきを得ることができました。今後も語学学習を続けるとともに、異なる背景を持つ人々との対話を大切にし、今回得た視点を大学での学びや国際交流に生かしていきたいと考えています。

〇今後、留学を希望する宮大生のみなさんへ
順天大学（スンチョン大学）は、自然が豊かで宮崎にも似た落ち着いた環境にあり、初めて海外に行く方にもおすすめの留学先です。
日本語を学ぶ学生たちはとても熱心で、韓国語に自信がない方や、これから学び始める方でも、ティーチングアシスタントとして日本語学習をサポートできます。また、日本人の先生が 2 名いらっしゃるほか、ほかの先生方とも日本語でコミュニケーションが取れるため、困ったときに相談しやすい環境です。
午前中の韓国語の授業では、ハングルや挨拶、基本的な文法を一から学ぶことができます。２週間という短期間でも、現地の学生との交流を楽しみながら、韓国語の基礎を学べることが魅力です。語学力に不安がある方にも、ぜひ挑戦してほしいプログラムです。

